makita®

取扱説明書

ガス式鋲打機

モデルTF-1100JQ

所持許可不要

トラックファースト®

⚠ 警 告

・使用前に必ず取扱説明書をよく読んで下さい。
・使用の際は必ず保護めがね、耳栓等防音具、安全帽を着用して下さい。
・鋲（ピン）出口を手で覆ったり、人体に向けたりしないで下さい。
・可燃性物質の近くや、風通しの悪い場所では使用しないで下さい。
・雨中や湿った所では絶対に使用しないで下さい。感電の恐れがあります。

・この取扱説明書は、いつでも読める所に大切に保管してください。
・本機の仕様は、機能向上の為、予告なしに変更することがあります

[1] はじめに

このたびはガス式鋲打機をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本取扱説明書は使用者の皆様にガス式鋲打機をご理解していただく為に作成されたものです。
はじめに、ガス式鋲打機は従来の鋲打銃とは全く異なる発想から開発されたガス内燃式構造の鋲打機です。原理は一般の自動車のエンジンと同じです。すなわちガス燃料と空気の混合物を爆発させ、そのサイクルを鋲打ちエネルギーに変えるものです。したがって、ガス式鋲打機は従来の鋲打銃のような火薬（空包）やエア源、エアホースが不要で、燃料ガス缶・鋲がすべて本体に内蔵された安全 ポータブル型です。
本取扱説明書はあらゆる面で使用される現場を念頭において作成されています。また、できるだけ技術用語を避け、平易な文章にしています。安全に能率よくお使いいただく為に、

ご使用前には、１．必ず取扱説明書をよく読む。
２．記載の警告、注意事項は絶対に守ることに心掛けて下さい。

ガス式鋲打機の使い方は、従来の鋲打機となんら変わりません。正しく操作すればスムーズな鋲打ちが出来ますが、使い方を誤ればけがの原因になります。なお、本取扱説明書は、常時読める所に大切に保管して下さい。
また、製品改良のため、仕様及び外観等は予告なしに変更する場合がありますのでご了承下さい。

目　次

[1] はじめに ---------- 1
[2] 安全作業について ---------- 2
[3] 各部の名称と仕様及び付属品 ---------- 4
[4] バッテリー及び充電器 ---------- 5
[5] 燃料ガス缶(燃料ガス及び定量ノズル) ------ 6
[6] 操作前の準備 ---------- 8
[7] 操作（使用方法）---------- 9
[8] サービス ----------10
　現場へ出かける前の点検
　鋲づまりの処置
　使用後の注意事項
[9] 保守・点検 ----------12
[10] 不具合の処置（ﾄﾗﾌﾞﾙｼｭｰﾄ）----------13
[11] アフターサービスについて ----------14

⚠警告 ⚠注意 の表示の意味について

本取扱説明書では、特に安全のため使用上の大切な注意事項を区別しています。
それぞれ次の意味を表します。

⚠警告　取扱いを誤った場合、使用者あるいは周囲の人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される場合の内容に関するご注意。

⚠注意　取扱いを誤った場合、使用者あるいは周囲の人が中程度または軽度の傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容に関するご注意。
（但し、状況によっては重大な結果に結びつく可能性がありますので、必ず守って下さい。）

［2］安全作業について

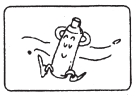
この章は使用者の皆様が安全を確保する為に最小限守っていただかなければならない注意事項をまとめたものです。
ガス式鋲打機を使用する前に必ず精読し、記載事項を厳守して下さい。不用意な操作や本機の能力を超えた使用は、けがや本体、その他器物の損傷につながることがあります。

⚠ 警 告　本機はガス内燃式構造のため、強燃性高圧ガスを使用しますので次のことを厳守下さい。

1．高温の排気ガスが可燃性物質に引火又は、爆発する恐れがありますので、発火性雰囲気内や可燃性物質（可燃性化学物質・接着剤・ガソリン・シンナー等）の近くで使用しないで下さい。

2．４０℃を超す高温に長時間放置しないように注意して下さい。燃料用ガス缶が破裂して 強燃性高圧ガスが噴出する恐れがあります。本機用燃料用ガス缶は高圧ガス保安法の適応を受ける高圧ガスです。取扱い及び保管、空き缶の処理には充分気をつけ て下さい。

3．本機は風通しの悪い場所では使わないで下さい。排気ガスに一酸化炭素が含まれますので、ねむけや吐き気、めまい等を引き起こす恐れがあります。



4．本体、燃料用ガス缶は、子供の手の届かない所に置いて下さい。

⚠ 警 告

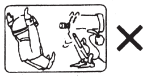
安全にご使用していただくため、次のことを厳守下さい。

1．使用前に必ず取扱説明書をよく読む！
安全作業、サービスに関する注意事項をしっかり読んでから作業を始めて下さい。
不明な点がありましたら販売店におたずね下さい。

2．保護めがねと耳栓を！
操作時は云うまでもなく、本機の近くで作業する場合も必ず側面カバー付きの保護めがねと耳栓を着用して下さい。

3．鋲(ピン)は必ず入っていると思うこと！
マガジンに鋲が残っていないか必ず点検して下さい。鋲がないと思っても人に向けないで下さい。見えなくても鋲(ピン)が飛び出すことがあるからです。

4．ガス式鋲打機は玩具ではありません！
ガス式鋲打機は遊具や玩具ではありません。遊びのつもりが大けがのもとになります。
鋲(ピン)が入っていないと思っても人に向けないで下さい。又、振り回さないで下さい。

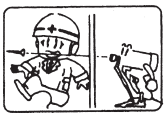


5．引金に指を掛けて持ち歩かない！
いつもハンドルだけ握って持ち歩いて下さい。不用意に引金に指を掛けないで下さい。

6．不具合の生じたガス式鋲打機は使わない！
ガス式鋲打機に不具合が生じたは、常に取扱説明書を参照して下さい。又、取扱説明書に記載の範囲を超えた修理は絶対に行わないで下さい。

7．ツール本体及び充電器、ＡＣアダプタの改造は絶対に行わないで下さい。

8．相手材にワークコンタクトエレメントをしっかり押し当ててから発射！
相手材に先端のワークコンタクトエレメントをしっかり押し当ててから引金を引いて下さい。薄ものあるいは端部の作業は、鋲(ピン)の貫通、跳ね、逸れ、突出や相手材の割れなどの恐れがあります。注意して下さい。



9．向かい合っての鋲打ち作業はしない！

10．安全装置はいじらないこと！
ガス式鋲打機には不意の発射を防止するための安全装置（ワークコンタクトエレメント）がついています。みだりに改造したり、作動不能の状態にしないで下さい。安全装置は必ず正常な状態で使用しないと鋲(ピン)が突然飛び出す恐れがあります。安全装置の不具合なガス式鋲打機は使用しないで下さい。

11．安全装置（ワークコンタクトエレメント）、引金が作動しなかったり、壊れたら絶対に使用しない！

12．シュラウドをいじらない！
ガス式鋲打機はシュラウドがついています。シュラウドをはずしたり、改造すると、ツールとして作動しなくなったり、鋲(ピン)が突然飛び出す恐れが出てきますので、絶対に、いじらないでください。

13．鋲(ピン)を装てんする時は引金を引いたり、また安 全装置に触れないこと！
ハンドルを握った状態で鋲(ピン)を装てんする時は 引金を引かないようにして下さい。又、この時 先端のワークコンタクトエレメントを押し上げないで下さい。押し上げた状態になると、安全装置がはずれて鋲(ピン)が発射します。

⚠ 警 告

安全にご使用していただくため、次のことを厳守下さい。

14. 鋲(ピン)がつまった時は！
まず燃料用ガス缶とバッテリーを本体から取り出し、マガジンロックノブをゆるめる(外さなくても良い)。マガジンアセンブリを本体から外しつまった鋲(ピン)を取り出す。鋲(ピン)づまり処置は11頁に従って下さい。

15. ネジの緩み、その他不具合箇所に注意！
ネジが緩んでいないか、各部の取付けや作動の状態が適切かどうかをチェックして下さい。部品がひとつでも外れていたら使わないで下さい。又、応急処置は絶対に行わないで下さい。

16. 一度打ち込んだ鋲(ピン)頭に再び鋲(ピン)を打たないように！
鋲(ピン)が弾けて、事故のもとになります。打ち込みのできる箇所を狙って下さい。

17. ノーズやワークコンタクトエレメントの近くに手をそえない！
何らかの原因で鋲(ピン)が飛び出したり、はね返ることがありますので、注意して下さい。

18. 見えない障害物にご注意！
隠れた電気配線・ガス管・上下水道管等に打込まないよう注意して下さい。

19. 足場にご注意！
高所では、足場の不安定な作業は避けて下さい。本機の打込時の反動で身体のバランスを失う恐れがあります。
又、屋根作業や高所の水平作業では、前方注意ができるように、前進姿勢で作業をして下さい。

20. 燃料用ガス缶の保管にご注意！
本品は、高圧ガス保安法の適応を受けます。取扱い及び保管には充分注意して下さい。
４０℃を超える場所や通気性の悪い場所での保管は避けて下さい。

21. 使用済み空き缶の処理！
使い捨ての容器になっていますが、必ず残ガス（燃料）を完全に抜いた後、付属の孔あけ器具を使って、孔をあけ、噴射用加圧剤を排出した上で、分別廃棄して下さい。
〔空き缶の処理の項（７頁）もお読み下さい。〕
排出時には、くわえタバコ厳禁、急冷却注意。

22. 保守点検や修理を行う時、使用しない時は、必ず燃料用ガス缶、バッテリー及び鋲(ピン)を本体から取り出して下さい。

23. ガス式鋲打機はいつもきれいに！
作業が終わったら、本体をきれいに拭いて下さい。汚れていると鋲(ピン)づまりや故障の原因になります。

24. ガス式鋲打機の保管！
使用後は必ず燃料用ガス缶、バッテリー、鋲(ピン)を本体から取り出し収納ケースに収納し、盗難や紛失にご留意の上保管下さい。

25. 作業が終了したり、中断して現場を離れる時には本機や燃料用ガス缶を現場に放置しない！燃料用ガス缶、バッテリー及び鋲(ピン)を本体から取り出し、専用収納ケースに収納し安全な場所（子供の手の届かない所や鍵のかかる所で、しかも乾燥した場所等）に保管して下さい。正しい使い方を知らない人による事故や盗難、紛失の恐れがあります。

26. 雨中や湿った場所では絶対に使用しない！
雨の中、水のかかる場所、濡れた場所、湿った場所では絶対に使用しないで下さい。感電の恐れ、故障の原因になります。

27. 一酸化炭素・メタンガス等の発火性雰囲気の中や可燃性物質（プロパンガス、可燃性化学物質、接着剤、ガソリン、溶剤等）の近くで使用しないで下さい。

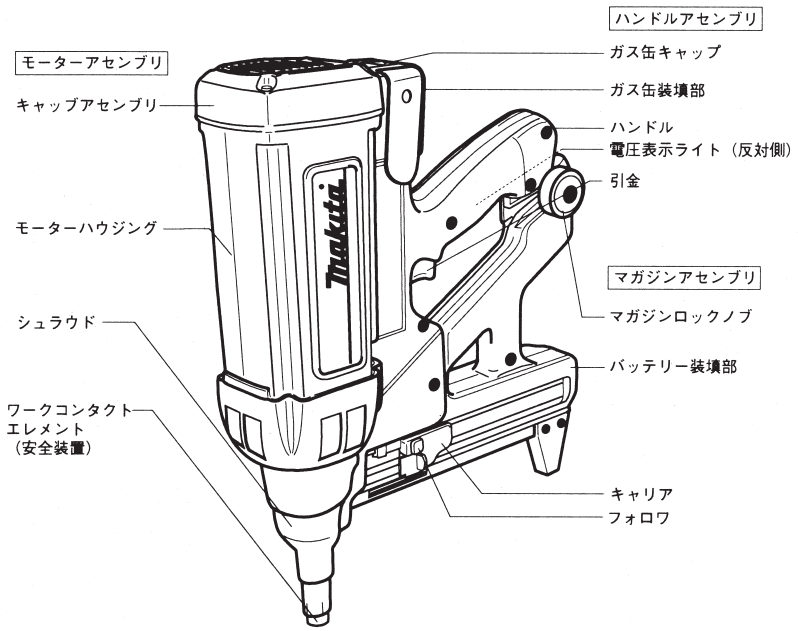
28. 指定の鋲(ピン)を使用する！
本機には必ず指定の専用鋲(ピン)を使用して下さい。純正品以外または、指定品以外の鋲(ピン)を使用すると、本機の損傷や事故の原因になります。

29. 本機の修理は、専門店に依頼する！
修理は、必ずお買い求めの販売店、または当社に依頼して下さい。修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。

―事故は“人災”であることをお忘れなく―

［3］各部の名称と仕様及び付属品

ガス式鋲打機は次の３つの主要部分により構成されます。
1．ハンドルアセンブリ
　引金、電圧表示ライト、ガス缶装てん部、ガス缶キャップ
2．モーターアセンブリ
　キャップアセンブリ、モーターハウジング、ワークコンタクトエレメント（安全装置）、シュラウド
3．マガジンアセンブリ
　フォロワ、キャリア及びマガジンロックノブ、バッテリー装てん部



⚠ 警 告

- 本機は鋲（ピン）をコンクリートに打ち込むことを目的としたガス式鋲打機です。
- 目的以外の用途や指定以外の使用方法は、重大な事故につながる恐れがあります。

※ トラックファーストはガス式鋲打機ですが、銃砲刀剣類等所持取締法の対象外です。このため、お買い求めの日からすぐに使用できます。

商品名	ガス式鋲打機
商品形番	TF-1100JQ（ショートマガジン）
寸法	403mm（高）×317mm(長)
重量	3.7kg （本体のみ） 4.0Kg （バッテリー、ガス缶装填時）
ピン送り機構	定格出力バネ方式(ﾋﾟﾝ後方差込み)
ピン(鋲)装填数	22本(10本／1ｽﾄﾘｯﾌﾟ×2+2本)
使用ピン長さ	ガス式鋲打機専用ピン （長さ）19，22，25，32，38mm ＰＣコンクリート専用ピン （長さ）19mm
打込み速さ(最大)	２～３本／秒
使用燃料(ガス)	専用ガス缶(赤) 炭化水素系液化ガス(有臭)] ※鋲(ピン)打込み本数： 最大1,200本／缶
バッテリー	Ｎｉ－ｃｄ電池ＤＣ６Ｖ ※鋲(ピン)打込み本数： 約3,000本／１フル充電
使用温度範囲	－7℃～４０℃（本体およびガス缶、バッテリーを含む）
安全装置	機械的電気的ロック式、空打ち防止機構

仕　様
ガス式鋲打機 TF-1100JQ の付属品

標準付属品
1．バッテリー 1個
2．充電器 1個
3．充電器用ＡＣアダプタ 1個
4．透明保護メガネ 1個
5．孔あけ器具（ガス缶用） 1個
6．収納ケース 1個

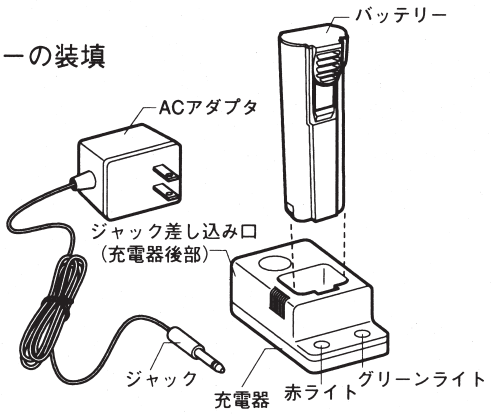
特別付属品（別売品）
1．ガス缶（赤ノズル）　品番：ＦＣ－２Ｒ
2．透明保護めがね
3．バッテリー（予備用）
4．孔あけ器具（ガス缶用）
5．収納ケース

※なお、製品改良のため、仕様及び外観などは予告なしに変更する場合がありますので、ご了承下さい。

［4］バッテリーおよび充電器

充電の要領
ガス式鋲打機には、充電式バッテリーと独自の充電システムが備わっています。この充電式バッテリーと充電システムとのコンビネーションがなければ、ガス式鋲打機は使用できません。お買い求めになった時は、バッテリーは充電されていませんので、新しいツールを最初にご使用になる場合は前もって、初回充電（24時間）を行って下さい。再充電は5分から2時間です。（バッテリーの放電量によって時間が異なります。）

バッテリーの装填



⚠警 告

バッテリーは爆発性化学物質です。充電する際やバッテリーを使用する前に、取扱説明書をよく読んで下さい。不用意な取扱いは火災 や火傷あるいは有害物発生の原因になります。

充電方法

1. ACアダプタのジャックをオレンジ色の充電器のジャック差し込み口に差し込んで下さい。
2. ACアダプタを電源(AC100V)に差し込んで下さい。グリーンライトが点灯します。
3. バッテリーを端子側を下にして充電器の挿入口に差し込んで下さい。グリーンライトが消え、赤ライトが点灯し、充電中であることを表します。

⚠注 意

バッテリーが完全放電されている場合、赤とグリーンのライトが20分くらい交互に点灯することがあります。これは、充電のための電流をフルに受け入れる状態になるまで、安全面での配慮から、ゆっくりと充電して行くためです。20分を過ぎても、なお交互に点灯している場合は、バッテリーを交換して下さい。

4．充電が完了すると、赤ライトが消え、グリーンライトが点灯しま す。充電器はバッテリーを外すまではフル充電の状態を保ちます。

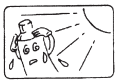
⚠注 意

バッテリーの充電後は、ACアダプターを電源（AC100Vのコンセント等）から引き抜き、さらに充電器後部のジャック差し込み口からACアダプターのジャックを取り外して下さい。ジャックを差し込んだまま、収納ケースに収納すると充電器及びACアダプタの故障の原因となります。

充電時間
初回の充電（新しいバッテリーを使用される場合）　24時間
再充電　5分～2時間

⚠警 告　充電する際には、必ず次のことを守って下さい。

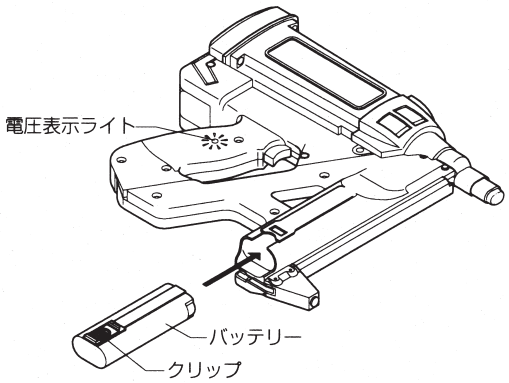
1．取扱説明書に記載されているバッテリーと充電器の組合せで使用して下さい。
2．損傷しているコードやプラグは絶対に使用しないで下さい。
3．充電器、ＡＣアダプタを清掃・点検する時は必ずＡＣアダプタを電源から外して下さい。
4．バッテリーの充電は専用充電器を用いて指定電圧(１００Ｖ）で行って下さい。
5．エンジン発電機や直流電源、トランス類を電源に使用しないで下さい。
6．屋内で充電し、雨中や水のかかる所、湿気の多い所では行わないで下さい。感電や発火の恐れがあります。
7．ぬれた手でプラグを持たないこと。感電の恐れがあります。
8．充電中は紙や布をかぶせないこと。燃える恐れがあります。
9．発火性のガソリン、シンナー等の近くでは充電しないで下さい。
10．直射日光を避け、風通しの良い所で充電して下さい。



11．充電器が過熱したり、発煙した場合は使用しないで下さい。
12．バッテリーは４９℃を超える場所に長時間放置しないで下さい。
13．バッテリー温度が５℃以下の場合は充電しないで下さい。
14．バッテリー端子に金属片を接触させないで下さい。
15．バッテリーを火中に投入しないで下さい。
16．バッテリーに孔を開けたり、切り開いたりしないで下さい。
17．バッテリーを水に濡らさないで下さい。
18．バッテリーはニカド電池です。寿命のきたバッテリーはリサイクルのため、端子部に絶縁テープを巻いて販売店へお返し下さい。

1．右図のようにクリップが固定 されるまでしっかりと端子側から差し込んで下さい。
2．取り外す場合は、クリップを 押さえながら引き抜いて下さい。

電圧表示ライト
下図はグリップハンドル右側部を示します。
先端のワークコンタクトエレメントを相手材に押しつけファンモータが回転すると電圧 表示ライトが点滅から点灯に変わります。
“グリーン”ライト点灯・・・・バッテリー電圧が十分です。
“赤”ライト点灯・・・・・・・電圧不足です。充電して下さい。



［5］燃料用ガス缶(燃料ガス及び定量ノズル)

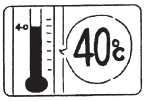
燃料用ガス缶

⚠ 警 告	高圧ガス保安法の適応を受ける強燃性高圧ガスです。次のことを厳守して下さい。

（使用及び保管上）

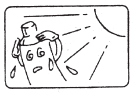
1．定量ノズルの取付けや操作時のくわえタバコは絶対に避けること。

2．４０℃以上の場所に長時間置かないこと。

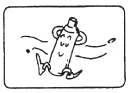


3．火気に近づけたり、火中に投入しないこと。

4．直射日光や、温度上昇の恐れのある場所や通気性の悪い閉めきった場所（車両のトランクや運 転席等）に置かないこと。



5．風通しのよい、涼しい場所に置くこと。風通しの悪い場所では 酸欠になる恐れがあります。



6．吸引しないように注意すること。（めまいや吐き気等を引き起こす恐れがあります）

7．子供の手の届かない所に置くこと。

8．使い終わるまで、燃料用ガス缶に孔を開けたり、切り開いたりしないこと。

燃料用ガス缶は、二重構造になっています。中袋の中に燃料ガス（常温で液状）、中袋と外殻の間にプロペラントと呼ばれる燃料の噴射圧を一定に保つ為の液化ガス（３５℃で約１５ｋｇｆ／ｃｍ２）が入っています。
歯みがきチューブを外側から押し出すような仕組みで燃料は最後まで無駄なく消費されます。
このような構造から中袋の燃料を使い切っても外側のプロペラントは１００％残ったままです。

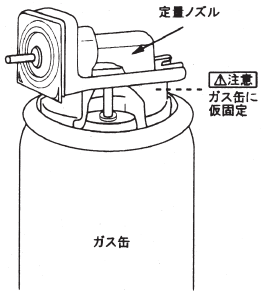
⚠ 警 告

噴射加圧剤（プロペラント）も可燃性高圧ガスです。空き缶の処理については特に注意して下さい。
（７頁の空き缶の処理の項に従うこと）

（内容物）
燃　料　：　1―ブテン　プロピレン

＊いずれも強燃性高圧液化ガスです。
（３５℃で約１５ｋｇｆ／ｃｍ２）
消費期限 ：ガス容器の缶底のラベルに記載

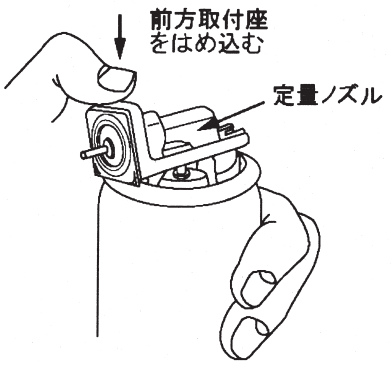
定量ノズルの取付け
定量ノズルは操作のたびに一定量の燃料を燃焼室に噴射させる装置です。



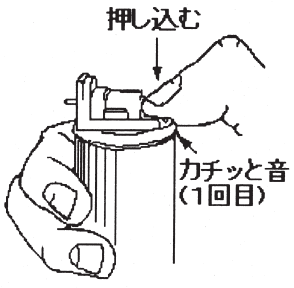
⚠ 注 意

新品の燃料用ガス缶をツール本体に装てんする前には、必ず定量ノズルをきちっとはめ込んで下さい。そうしないと、燃料ガスが定量ノズルの吐出ノズル部から噴射できなくなります。

（１） 噴射ガスが手や顔に触れないように、まず定量ノズルの前方取付座を燃料用ガス缶縁部にはめ込みます。



（２） 次に定量ノズルの後方取付座を押し込みます。（カチッと１回、音がするまで）



燃料用ガス缶の装てん

⚠注 意

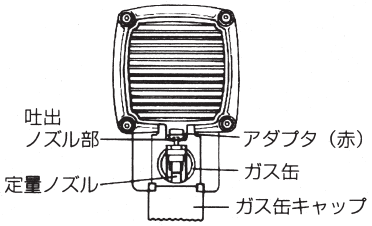
●新品のガス缶をツール本体に装てんされる場合、定量ノズルをガス缶にきちっとはめ込んだ後に装てんして下さい。そうしないと、ガス缶の吐出ノズル部を、ツールのアダプタ(赤)に無理にはめ込もうとして、吐出ノズル部を破損する恐れがあります。
●本機のガス缶は、必ず純正の赤ノズルのガス缶を使用して下さい。

燃料用ガス缶（定量ノズル付）の装てんは簡単です。

1．燃料用ガス缶キャップ①を押し上げ、②手前に引くと燃料用ガス缶キャップが開きます。

2．定量ノズルの吐出ノズル部を前方に向けて燃料用ガス缶を差し込んで下さい。

3．燃料用ガス缶キャップを開いた時、赤いアダプタが見えます。吐出ノズル部をこのアダプタにはめ込んで下さい。アダプタの孔を通して燃料ガスが燃焼室に噴射されます。



4．燃料用ガス缶キャップを定量ノズルにかぶせ②下方へ押すと、カチッとはまります。

空き缶の処理

本品は二重構造になっており、中袋の燃料を使った後も外側の噴射加圧剤（プロペラント）は残ったままです。
次により処理して下さい。

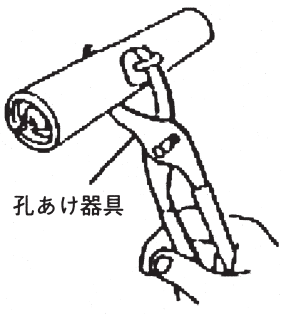
⚠警 告

空き缶を火中に投入しないで下さい。
爆発の恐れがあります。

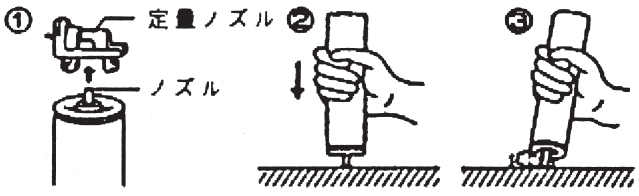
1．残ガス（燃料）を完全に抜いた後、次の方法（A又はB）のどちらかで噴射加圧剤の排出処理を行って下さい。

くわえタバコ厳禁、急冷却注意

A．付属の孔あけ器具を使い、ガス缶に孔を開け噴射加圧剤を排出する。



B．①定量ノズルをガス缶容器から外す。
②次に、ノズル部を下に向け、ガス缶を垂直にして持ち、硬い面にたたきつけると容器内部のシールが壊れる。
③さらに、ノズルを押す（2～3回）と、噴射加圧剤が排出される。



2．残ガス（燃料）と噴射加圧剤を排出後、空き缶はアルミ缶として分別廃棄して下さい。

［6］操作前の準備

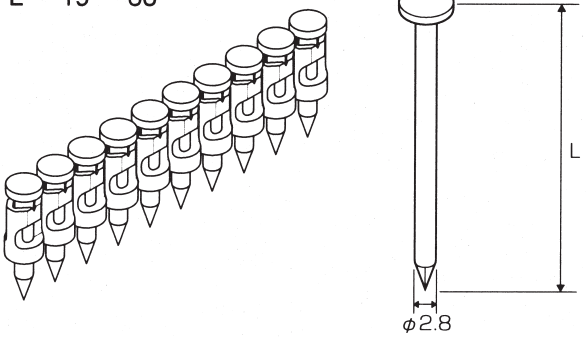
使　用　鋲（ピン）

⚠ 警 告

本機はマキタの特殊連結鋲専用機です。純正品以外の鋲（ピン）を使用すると、破損や事故の原因になる恐れがあります。

ガス式鋲打機用連結鋲（ピン）
連結本数：１０本
（サイズ）

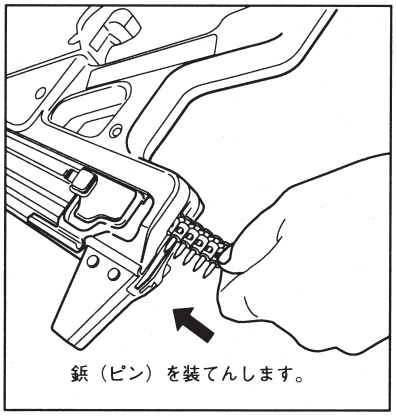
L＝19～38



鋲（ピン）の装てん

1．キャリアを固定されるまで引き寄せて下さい。

2．下図の通り、ガス式鋲打機用連結鋲（ピン）をマガジン後部より差し込んで下さい。


鋲（ピン）を装てんします。

3．キャリアをささえながら、キャリア中央のボタンを 押して固定を解除して下さい。

4．キャリアをゆっくりと戻し、連結鋲（ピン）に当てて下さい。

⚠ 注 意

ゆっくり当てないと鋲（ピン）づまりの原因となります。

⚠ 警 告

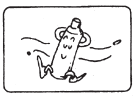
- 鋲（ピン）を打つ時以外は、ワークコンタクトエレメントを押しつけた状態（安全装置が外れた状態）で引金を引かないで下さい。ハンドルを握って鋲（ピン）を装てんする際、誤って引金を引いたまま、ワークコンタクトエレメントを押しつけた状態になると、安全装置が外れて鋲（ピン）が発射します。
- 不用意に引金に指を触れないで下さい。鋲（ピン）が飛び出す恐れがあります。
- 鋲（ピン）が見えなくても、鋲（ピン）が入っていますので絶対に人体に向けて引金を引かないで下さい。マガジン内の連結鋲（ピン）の残数が２本以下になると、本機内で空打ち防止装置が働き、作動しなくなります（ワークコンタクトエレメントを押しつけられなくなります）。この状態で、みだりにワークコンタクトエレメントを押しつけないで下さい。空打ち防止装置がこわれます。しかし、鋲（ピン）が残っていますから、この場合にも絶対に人体に向けて引金を引かないで下さい。
- 作業を中断する時や使用しない時は、燃料用ガス缶を本機から必ず取り出して下さい。

空打ち防止装置の作動している状態を解除するには、新しい連結鋲（ピン）をマガジン内に装てんして下さい。なお「鋲（ピン）が打てない」という現象で上記以外の原因 については、トラブルシュート（１３頁）を参照の 上、処置して下さい。

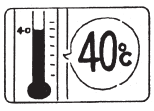
本機操作の温度と雰囲気条件

⚠ 警 告　本機の操作は、次の温度や雰囲気条件で行って下さい。

1．風通しの悪い場所で使用しないで下さい。酸欠になる恐れがあります。

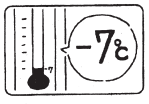

○

2．本機は本体及び燃料用ガス缶の温度（気温ではありません）が－７℃以上４０℃以下の状態で操作できます。温度が低すぎる と本体を損傷し、高すぎると本体だけでなく、燃料用ガス缶も損 傷する恐れがありますのでご 注意下さい。



×

3．－７℃以下での使用は避けて 下さい。温度が低すぎると燃料の噴射効率が落ちて所定のパワーが出ません。



×

4．雨の中や湿気の多すぎる場所での操作は避けて下さい。感電の恐れ、故障の原因になります。

5．一酸化炭素・メタンガス等の発火性雰囲気の中や可燃性物質（プロパンガス、可燃性化学物質、接着剤、ガソリン、溶剤等）の近くで使用しないで下さい。

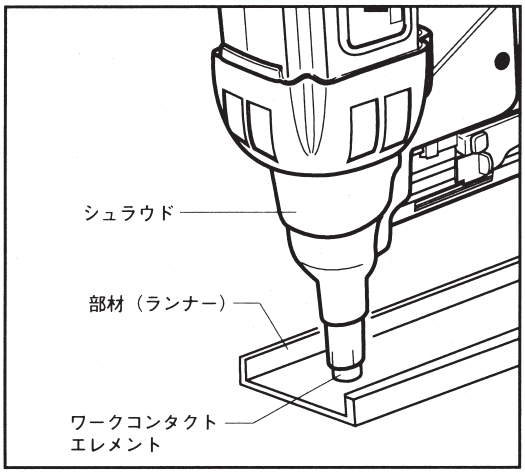
×

操作の手順

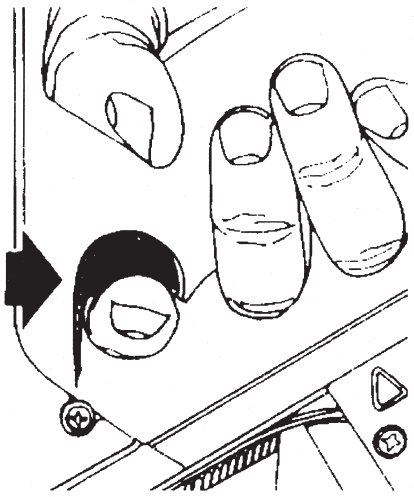
ガス式鋲打機は、次の手順で操作して下さい。この手順に従わないと操作ができません。

1．まず、燃料用ガス缶、バッテリーを装てんし、次にマガジンに連結鋲（ピン）を装てんする。

2．ワークコンタクトエレメントの先端を相手材に押し当てる。
ファンモーターのスイッチが入りファンが回転し始め、電圧表示ライトがグリーンに点灯する。
燃料ガスが燃焼室に噴射され、ファンにより空気と混合される。



3．引金を引く
混合ガスに点火され燃料ガスの爆発力でピストンアセンブリが作動し、鋲（ピン）を打つ。



4．引金を離し本機を持ち上げる
ファンにより排気ガスが排出され、機内が冷却される。
（注）操作が終わってもファンは約１０秒間回転します。

［8］サービス

現場へ出かける前の保守・点検

⚠ 警 告

本体の保守・点検及び鋲（ピン）づまり処置の際は、必ず燃料用ガス缶及びバッテリーを取り外して下さい。

作業に取りかかる前のメンテナンスは次の保守・点検作業に限定して下さい。

1．バッテリー電圧の点検
2．バッテリーの再充電
3．燃料用ガス缶及び定量ノズルの点検
4．燃料用ガス缶の取り替え
5．エアフィルタの掃除
6．鋲（ピン）づまりの処置

⚠ 警 告

上記以外の作業は事故につながる恐れがありますので行わないで下さい。

バッテリーの点検

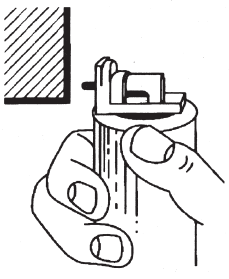
1．本機にバッテリーを装填し電圧表示ライトに注意、確認（使用中も時々）して下さい。不具合がある時は、まずバッテリー電圧が 充分であるか確かめて下さい。
2．電圧表示ライトが“赤”の時は電圧不足です。バッテリーを充電して下さい。
3．電圧表示ライトがグリーンの時は電圧は充分です。

燃料用ガス缶の点検

電圧表示ライトが“グリーン”ライトの点灯で打ち込みが充分でない時は、燃料ガスが切れかかっている恐れがあります。
燃料用ガス缶を取り出し、残ガスと定量ノズルの作動を点検して下さい。

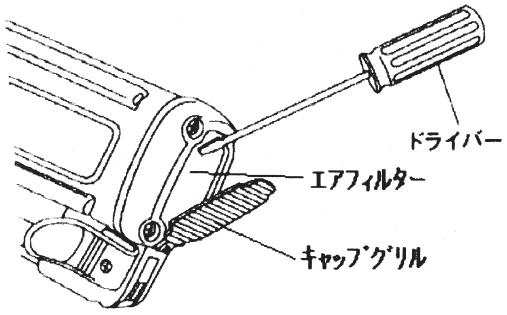
⚠ 注 意

- 燃料用ガス缶を垂直にもって、燃料用ガス缶の吐出ノズル部(定量ノズル)を水平に保ち、５～１０回硬い面に押付けて下さい。毎回、一定量の燃料ガスが噴射すればガスが残っており、燃料ガスが噴射しなければ残ガスはありません。
- 残ガス(燃料)が無い場合は、新しい燃料用ガス缶と交換して下さい。



エアフィルタの点検

1．ドライバ（ー）を押し当て、キャップグリルを軽くこじ開けて下さい。（下図参照）
この時、強く押し当て、中にあるエアフィルタに損傷を与えないように注意して下さい。
2．次に、エアフィルタをていねいに取り出して下さい。
3．エアフィルタをエアダスタで清掃して下さい。
4．エアフィルタの点検、清掃は２日に１回程度行って下さい。



（注）エアフィルタは１枚入っています。

⚠ 警 告

エアフィルタの清掃は、定期的に行って下さい。そうしないと、エアフィルタの汚れにより、過熱し、本体に損傷を引き起こしたり、鋲が打ち込めなくなる恐れがあります。

⚠ 警 告

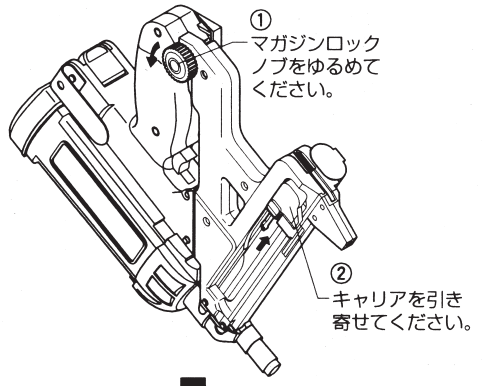
必ず燃料用ガス缶及び、バッテリーを取り出してください。

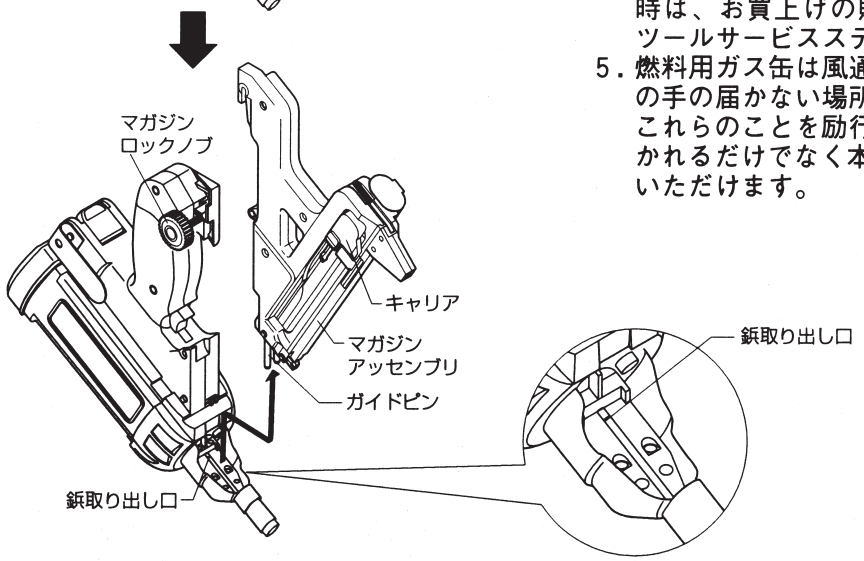
本機の鋲（ピン）づまりの処置は構造上簡単で、次のように行って下さい。

1．キャリアを固定されるまで引き寄せて下さい。
2．本体を上に向けると、連結鋲（ピン）が落ちてきます。
3．キャリアをささえながら、キャリア中央のボタンを押して固定を解除して下さい。
4．キャリアをゆっくりとノーズ側に引き戻します。

もし、キャリアを固定されるまで引き寄せてマガジン後部を下にしても鋲（ピン）が落ちてこない時には
1．マガジンロックノブをゆるめる。(外さなくてもよい)
2．マガジンアセンブリを本体から外す。
3．つまった鋲（ピン）を取り出す。

鋲（ピン）を取り出した後は、マガジンアセンブリのガイドピン(２ケ)をノーズ側にしっかりと差し込み、マガジンロックノブをしめてマガジンアセンブリを固定します。最後に燃料用ガス缶とバッテリーを挿入し、鋲(ピン)を装てんし ます。





⚠ 警 告

マガジンアセンブリをもとに戻す時にはノーズ側に完全に密着させてから、マガジンロックノブをしっかりと締めて下さい。ねじがしっかりと締まっていない状態で操作すると、鋲(ピン)送り不良や本体の損傷または鋲(ピン)が手元に飛び出す等の恐れがあります。

使用後の注意事項
毎日の作業終了時には、必ず次の作業を行って下さい。これは安全のみならず、本機の性能を維持するためにも必要なことです。

①現場を離れる前に

⚠ 警 告

1）本体から燃料用ガス缶及びバッテリーを取り出して下さい。
2）本体、バッテリーを収納ケースに正しく収納して下さい。
※本体の運搬、保管には必ず収納ケースを用いて下さい。
3）燃料用ガスの空き缶でも“高圧ガス”です。第［５］章の注意事項に従って正しく処理して下さい。

②会社または自宅に帰ってから

⚠ 警 告

本体の保守・点検や清掃の際は、必ず燃料用ガス缶やバッテリー及び鋲（ピン）を取り出して下さい。

1．バッテリーを充電して下さい。
※バッテリーの充電後はＡＣアダプターを電源（ＡＣ１００Ｖのコンセント等）から引き抜き、さらに充電器後部のジャック差し込み口からＡＣアダプターのジャックを取り外し、保管して下さい
2．本体をきれいな布でよく拭いて下さい。
3．エアフィルタを取り外し、清掃して下さい。
(１回／２日)
※１０頁のエアフィルタの点検参照
4．ワークコンタクトエレメント（安全装置）が正しく作動するか点検して下さい。正しく作動しない時は、お買上げの販売店または、最寄りの弊社ツールサービスステーションにお問合せ下さい。
5．燃料用ガス缶は風通しのよい、涼しい場所で子供の手の届かない場所に保管して下さい。
これらのことを励行すれば、すぐに次の作業にかかれるだけでなく本体を常に最良の状態でお使いいただけます。

［9］保守・点検

本機を故障なく、永く安全にご使用いただくために保守・点検を日頃から行って下さい。

⚠ 警 告

- 本体の保守・点検及び修理の際は、必ず燃料用ガス缶及びバッテリーを外し、鋲(ピン)を取り出して下さい。
- 修理は自分で行わず、当社又は当社の指定する販売店に依頼して下さい。

保守・点検表（日常のメンテナンス　チャート）

実施項目		目的・理由	方　法
本体	安全装置（ワークコンタクトエレメント)が正常に作動している	作業者の安全性と操作効率の維持	毎日､摺動部をエアダスタ等で清掃する
	ノーズ内部の清掃	本機の性能維持	毎日、ノーズ内部をエアダスタ等で清掃する
	マガジン内部の清掃	本機の性能維持	毎日、マガジン内部（鋲の装てん部）をエアダスタ等で清掃する。
	取付けねじの確認	本機の性能維持	毎日、ねじをチェックし、ゆるんでいたら締め直す。
	エアフィルタの清掃	本機の性能維持	２日に１回、エアフィルタをエアダスタ等で清掃する。(10頁参照)
	モーターアセンブリ内部の清掃	本機の性能維持	販売店に依頼する
	Ｏリング、ブレード（ピストン）等消耗部品(※印)の点検や交換	本機の性能維持	販売店に依頼する
バッテリー	バッテリー端子の清掃（接触不良を防ぐ）	本機の性能維持	毎日、端子をウエス等で拭く

(注)※印の消耗部品は、Ｏリング、ピストン＆ドライバーブレードアセンブリ、ピストンリング、バンパ、グロメットです。

［１０］不具合の処置（トラブルシュート）

次表は、前述以外の不具合解決のためのトラブルシュートです。

⚠ 警 告
本取扱説明書に記載のない事柄についての処置はひかえ、指定の販売店にご相談下さい。 また、必ず純正部品をお使い下さい。

	状　況		原　因	処　置
モーターハウジング／エンジン部が作動しない	ワークコンタクトエレメント(安全装置)が完全に押し込めない		ワークコンタクトエレメント(安全装置)の不良	曲がっていないかチェックし、販売店へ修理に出す
			摺動部のゴミ	摺動部を清掃し、注油する
			マガジンに鋲(ピン)が装てんされていない	鋲(ピン)を3本を超えた数を装てんする
	ワークコンタクトエレメントを相手材に押し当てててもファンが回らない	押し当てた状態で電圧表示ライトがつかない	バッテリーコンタクトの異常	販売店へ修理に出す
			スパークユニットアセンブリーの異常	販売店へ修理に出す
			回路の異常	販売店へ修理に出す
		電圧表示ライトが赤の点滅	バッテリーの電圧不足	バッテリーを充電する
				バッテリーを交換する
			回路に異常	販売店へ修理に出す
		電圧表示ライトがグリーンの点滅	回路に異常	販売店へ修理に出す
			マガジンに鋲(ピン)が装てんされていない	鋲(ピン)を3本を超えた数を装てんする
		電圧表示ライトが赤の点灯	バッテリーの電圧不足	バッテリーを充電する
				バッテリーを交換する
		電圧表示ライトがグリーンの点灯	モーターの異常	販売店へ修理に出す
	ファンは回るが引金を引いても発射しない		燃料用ガス缶に燃料ガスが入っていない(ガス缶が装てんされていない)	新しい燃料用ガス缶を装てんする
			燃料用ガス缶の消費期限を過ぎている	
			回路に異常	販売店へ修理に出す
	時々発射するが連続発射ができない(ドライバーブレードの作動が不規則)		燃料用ガス缶に燃料ガスが入っていない	燃料用ガス缶の残ガス(燃料)を点検し、必要に応じて燃料用ガス缶を交換する(10頁参照)
			点火プラグの回路の異常	販売店へ修理に出す
			エアフィルタの汚れによる本機のオーバーヒート	エアフィルタを清掃する(10頁参照)
モーターハウジング／エンジン部が作動する	ファンが回り、引き金を引くと爆発音はするが鋲(ピン)が打ち込めない		鋲(ピン)づまり	つまった鋲(ピン)を除去する(11頁参照)
			鋲(ピン)の引っかかり	純正鋲(ピン)を使用する
			フォロワーが連結鋲端部に正しく当たっていない	フォロワーを連結鋲端部の正常位置に戻す
	打込み深さにムラがある		燃料用ガス缶に燃料ガスが入っていない	燃料用ガス缶の残ガス(燃料)を点検し、必要に応じて燃料用ガス缶を交換する(10頁参照)
	ドライバーブレードが元の位置に戻らない		異物がノーズに付着	ノーズを清掃する
			本体内部の異常	販売店へ修理に出す
	打込み後、ワークコンタクトエレメント(安全装置)が元の位置に下がらない		ワークコンタクトエレメント(安全装置)の曲がり	ワークコンタクトエレメント(安全装置)の曲がりを点検し販売店へ修理に出す
			ワークコンタクトエレメント(安全装置)溝部の汚れ	ワークコンタクトエレメント(安全装置)を清掃する
			本体内部の異常	販売店へ修理に出す

	状　況	原　因	処　置
充電器・バッテリー	充電器にACアダプタを差し込み、電源(AC100V)に接続してもグリーンライトが点灯しない	充電器本体、ACアダプタ又はライトの故障	充電器又はACアダプタを交換する
	充電器にバッテリーを挿入しても赤ライトが点灯しない	バッテリー本体が壊れている	バッテリーを交換する
		充電器本体の故障	充電器を交換する
	充電器にバッテリーを挿入し、赤ライト点灯後２時間以上充電してもグリーンライトが点灯しない	バッテリー本体の寿命がきている	バッテリーを交換する
		充電器本体の故障	充電器を交換する
	充電中、充電器、ACアダプタ、コード等が熱くなったり、異常音、発煙がある	充電器又はACアダプタの故障、あるいはバッテリーの故障	すぐに使用を中止し、充電器、ACアダプタ又はバッテリーを交換する
・上記の処置を行っても異常が直らない場合や、上記以外の異常がある場合には、自分で修理を行わないで販売店へご相談下さい。			

次のような場合も、本機が正常に作動しない場合があります。

状　況	処　置
本体及び燃料用ガス缶の温度が低い時（－ﾌ℃以下）	本機及び燃料用ガス缶、バッテリーを室温まで温めてから試し打ちを行う
長時間、本機を使用していない場合	燃料用ガス缶の残ガス（燃料）や消費期限、バッテリー電圧を点検し、数回試し打ちを行う

［１１］アフターサービスについて

■ ご修理の際はご自分でなさらないで、必ずお買い求めのマキタ電動工具登録販売店または裏面掲載の最寄りのマキタ直営店事業所にお申しつけ下さい。

全国に広がるアフターサービス網

お買い上げ商品のご相談は、最寄りのマキタ登録販売店もしくは、下記の当社営業所へお気軽にお尋ねください。

事業所名	電話番号
札幌支店	〈011〉(783) 8141
札幌営業所	〈011〉(783) 8141
旭川営業所	〈0166〉(29) 0960
釧路営業所	〈0154〉(37) 4849
函館営業所	〈0138〉(49) 9273
苫小牧営業所	〈0144〉(68) 2100
帯広営業所	〈0155〉(36) 3833
北見営業所	〈0157〉(26) 9011
仙台支店	〈022〉(284) 3201
仙台営業所	〈022〉(284) 3201
古川営業所	〈0229〉(24) 0698
青森営業所	〈017〉(764) 4466
八戸営業所	〈0178〉(43) 3321
盛岡営業所	〈019〉(635) 6221
水沢営業所	〈0197〉(22) 5101
郡山営業所	〈024〉(932) 0218
いわき営業所	〈0246〉(23) 6061
新潟支店	〈025〉(247) 5356
新潟営業所	〈025〉(247) 5356
長岡営業所	〈0258〉(30) 5530
山形営業所	〈023〉(643) 5225
酒田営業所	〈0234〉(26) 3551
秋田営業所	〈018〉(863) 5205
宇都宮支店	〈028〉(634) 5295
宇都宮営業所	〈028〉(634) 5295
小山営業所	〈0285〉(25) 5559
水戸営業所	〈029〉(248) 2033
土浦営業所	〈029〉(821) 6086
関東物流センター	〈048〉(771) 3451
埼玉支店	〈048〉(777) 4801
さいたま営業所	〈048〉(777) 4801
川越営業所	〈049〉(222) 2512
熊谷営業所	〈048〉(521) 4647
越谷営業所	〈0489〉(76) 6155
前橋営業所	〈027〉(232) 5575
高崎営業所	〈027〉(365) 3688
両毛営業所	〈0276〉(46) 7661
千葉支店	〈043〉(231) 5521
千葉営業所	〈043〉(231) 5521
市川営業所	〈047〉(328) 1554
成田営業所	〈0478〉(73) 8101
木更津営業所	〈0438〉(23) 2908
柏営業所	〈04〉(7175) 0411
東京支店	〈03〉(3816) 1141
東京営業所	〈03〉(3816) 1141
中野営業所	〈03〉(3337) 8431
足立営業所	〈03〉(3899) 5855
大田営業所	〈03〉(3763) 7553
江戸川営業所	〈03〉(3653) 5171
多摩営業所	〈042〉(384) 8411
立川営業所	〈042〉(542) 1201
横浜支店	〈045〉(472) 4711
横浜営業所	〈045〉(472) 4711
川崎営業所	〈044〉(811) 6167
平塚営業所	〈0463〉(54) 3914
相模原営業所	〈042〉(757) 2501
湘南営業所	〈0466〉(87) 4001
静岡支店	〈054〉(281) 1555
静岡営業所	〈054〉(281) 1555
沼津営業所	〈055〉(923) 7811
浜松営業所	〈053〉(464) 3016
甲府営業所	〈055〉(276) 7212
金沢支店	〈076〉(249) 5701
金沢営業所	〈076〉(249) 5701
七尾営業所	〈0767〉(52) 3533
富山営業所	〈076〉(451) 6260
高岡営業所	〈0766〉(21) 3177
福井営業所	〈0776〉(35) 1911
岐阜支店	〈058〉(274) 1315
岐阜営業所	〈058〉(274) 1315
多治見営業所	〈0572〉(22) 4921
松本営業所	〈0263〉(25) 4696
長野営業所	〈026〉(225) 1022
上田営業所	〈0268〉(22) 6362
飯田営業所	〈0265〉(24) 1636
名古屋支店	〈052〉(571) 6451
名古屋営業所	〈052〉(571) 6451
一宮営業所	〈0586〉(75) 5382
東名古屋営業所	〈0561〉(73) 0072
知多営業所	〈0569〉(48) 8470
岡崎営業所	〈0564〉(22) 2443
豊橋営業所	〈0532〉(46) 9117
四日市営業所	〈059〉(351) 0727
津営業所	〈059〉(232) 2446
伊勢営業所	〈0596〉(36) 3210
京都支店	〈075〉(621) 1135
京都営業所	〈075〉(621) 1135
福知山営業所	〈0773〉(23) 7733
大津営業所	〈077〉(545) 5594
彦根営業所	〈0749〉(22) 6184
大阪支店	〈06〉(6351) 8771
大阪営業所	〈06〉(6351) 8771
東大阪営業所	〈06〉(6746) 7531
関西物流センター	〈0725〉(46) 6715
南大阪営業所	〈0725〉(46) 6611
奈良営業所	〈0742〉(61) 6484
橿原営業所	〈0744〉(22) 2061
和歌山営業所	〈073〉(471) 4585
田辺営業所	〈0739〉(25) 1027
沖縄営業所	〈098〉(874) 1222
兵庫支店	〈0794〉(82) 7411
三木営業所	〈0794〉(82) 7411
尼崎営業所	〈06〉(6437) 3660
神戸営業所	〈078〉(672) 6121
姫路営業所	〈079〉(281) 0204
広島支店	〈082〉(293) 2231
広島営業所	〈082〉(293) 2231
福山営業所	〈084〉(923) 0960
三原営業所	〈0848〉(64) 4850
岡山営業所	〈086〉(243) 4723
宇部営業所	〈0836〉(31) 4345
徳山営業所	〈0834〉(21) 5583
鳥取営業所	〈0857〉(28) 5761
松江営業所	〈0852〉(21) 0538
高松支店	〈087〉(841) 2201
高松営業所	〈087〉(841) 2201
徳島営業所	〈088〉(626) 0555
松山営業所	〈089〉(951) 7666
宇和島営業所	〈0895〉(22) 3785
高知営業所	〈088〉(884) 7811
福岡支店	〈092〉(411) 9201
福岡営業所	〈092〉(411) 9201
北九州営業所	〈093〉(551) 3481
飯塚営業所	〈0948〉(26) 3361
久留米営業所	〈0942〉(43) 2441
佐賀営業所	〈0952〉(30) 6603
長崎営業所	〈095〉(882) 6112
佐世保営業所	〈0956〉(33) 4991
熊本支店	〈096〉(389) 4300
熊本営業所	〈096〉(389) 4300
八代営業所	〈0965〉(43) 1000
大分営業所	〈097〉(567) 3320
宮崎営業所	〈0985〉(26) 1236
鹿児島営業所	〈099〉(267) 5234
沖縄営業所	大阪支店の欄をご覧ください。

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11 -8 〒446-8502
TEL. 0566-98- 1711 （代表）

051018